

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2024年3月12日 火曜日

GCPのVMインスタンスでOracle Autonomous Database Free Container Imageを実行する

Google CloudでVMインスタンスを作成し、Oracle Autonomous Database Free Container Imageを実行してみました。インスタンスを作った後は、Oracle Cloudのコンピュータ・インスタンスで動作させた手順とあまり違いはありません。

以下より、実施した作業について紹介します。

作成するGCPのVMインスタンスの名前は**adb-free**とします。マシンの構成はもっともリーズナブルそうな汎用の**E2**を選びました。**マシン・タイプ**は**e2-standard-2** (2vCPU、1コア、8GBメモリ) を選択しています。

名前 *
adb-free

タグとラベルを管理

リージョン *
us-central1 (アイオワ)

ゾーン *
us-central1-a

マシンの構成

新登場: ストレージが最適化されたマシンシリーズ (プレビュー)
拡張ローカル SSD を備え、高密度ストレージに最適化された新しい Z3 シリーズをお試しください

汎用 コンピューティング最適化 メモリ最適化 ストレージ最適化 GPU

Series	説明	vCPUs	Memory	プラットフォーム
C3	一貫して高いパフォーマンス	4-176	8~1,408 GB	Intel Sapphire Rapids
C3D	一貫して高いパフォーマンス	4-360	8~2,880 GB	AMD Genoa
E2	低コスト、日常用途コンピューティング	0.25-32	1~128 GB	可用性に基づく
N2	料金とパフォーマンスのバランス	2-128	2~864 GB	Intel Cascade Lake
N2D	料金とパフォーマンスのバランス	2-224	2~896 GB	AMD EPYC
T2A	ワークロードのスケールアウト	1-48	4~192 GB	Ampere Altra Arm
T2D	ワークロードのスケールアウト	1-60	4~240 GB	AMD EPYC Milan
N1	料金とパフォーマンスのバランス	0.25-96	0.6~624 GB	Intel Skylake

マシンタイプ
ほとんどのワークロードに適した vCPU 数とメモリ量が事前に設定されているマシンタイプを選択します。または、ワークロードの特定のニーズに合わせてカスタムマシンを作成することもできます。

プリセット カスタム

e2-standard-2 (2 vCPU, 1 コア, 8 GB メモリ)

vCPU
2 (1 コア)

Memory
8 GB

ブートディスクの変更をクリックし、**イメージ**をOracle Autonomous Database Free Container Imageを動作させた実績のある**CentOS Stream 9**へ変更します。

ブートディスク *

名前
adb-free

タイプ
新しいバランス永続ディスク

サイズ
20 GB

ライセンスの種類
無料

イメージ
CentOS Stream 9

変更

以上の設定で、VMインスタンスを作成しました。この構成での月間予測は\$50.92、これは 1 時間あたり約 \$0.07 とのことでした。

VMインスタンスが作成されます。割り当てられた外部IPに接続する際にホスト名が使えるように、ローカルのhostsファイルにエントリをgcp-adb-freeとして追加しておきます。

ファイアウォールルールを設定を開き、ポート1522と8443への通過許可を与えます。



ファイアウォールルールを作成します。



ファイアウォールルールの名前はrule-for-adb-freeとします。

トラフィックの方向は上り、一致したときのアクションは許可、ターゲットはネットワーク上のすべてのインスタンス、送信元IPv4範囲は0.0.0.0/0を指定しています。

プロトコルとポートは指定したプロトコルとポートを選択し、TCPのポート8443,1522を指定しています。

← ファイアウォール ルールの作成

ファイアウォールルールは、インスタンスに対する受信トラフィックまたは送信トラフィックを制御します。デフォルトでは、ネットワーク外部からの受信トラフィックはブロックされます。[詳細](#)

名前 *
rule-for-adb-free

説明

ログ
ファイアウォールのログを有効にすると大量のログが生成され、Logging の費用が増加する可能性があります。[詳細](#)
☐ オン
☒ オフ

ネットワーク *
default

優先度 *
1000 他のファイアウォールルールの優先度を超過する

トラフィックの方向
☒ 上り
☐ 下り

一致したときのアクション
☒ 許可
☐ 拒否

ターゲット
ネットワーク上のすべてのインスタンス

ソースフィルタ
IPv4 範囲

追加元 IPv4 範囲 *
追加元 IPv4 範囲

2 番目のソースフィルタ
なし

宛先フィルタ
なし

プロトコルとポート
☐ すべて許可
☒ 指定したプロトコルとポート

☒ TCP
ポート
8443, 1522
例: 22, 53 などのポート

☐ UDP
ポート
例: 443

☐ その他
プロトコル
複数のプロトコルはカンマで区切ってください [例: ssh, scp]

ルールを無効にする

作成 キャンセル

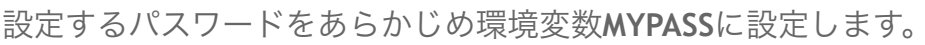
作成したVMインスタンスに接続し、Oracle Autonomous Database Free Container Imageからコンテナ**adb-free**を作成して実行します。

ブラウザからSSHで接続します。



ターミナルが開いたら、podmanを含むcontainer-toolsをインストールします。

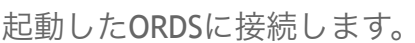
`sudo dnf -y install container-tools`



```
export MYPASS=<パスワード>
```

コンテナ**adb-free**を作成します。

```
podman run -d \
-p 1521:1522 \
-p 1522:1522 \
-p 8443:8443 \
-p 27017:27017 \
-e WORKLOAD_TYPE='ATP' \
-e WALLET_PASSWORD=$MYPASS \
-e ADMIN_PASSWORD=$MYPASS \
--cap-add SYS_ADMIN \
--device /dev/fuse \
--name adb-free \
container-registry.oracle.com/database/adb-free:latest
```



<https://gcp-adb-free:8443/ords/>

自己署名証明書によってHTTPSにしているため、証明書のエラーが発生します。エラーを無視して、接続します。



ORDSのランディング・ページが開きます。



以上でGCPのVMインスタンス上の作業は完了です。

クラウド・ウォレットwallet.zipの作成やOracle SQL Developer Extension for VS Codeからの接続は、Oracle Cloudのコンピュート・インスタンスのときと同じ作業で、クラウド・ウォレットを使った一般的な手順になります。

今回の記事は以上になります。

完

Yuji N. 時刻: 14:33

共有

<

ホーム

>

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.